



組織的な小中連携の在り方と教頭の役割

—各中学校区小中連携構想図等を活用した学びと育ちの滑らかな接続を目指して—

熊本県芦北・水俣郡市教頭会 芦北町立田浦小学校 今 脇 三 仁

1 主題設定の理由

熊本県南部に位置する芦北町には、規模も地域性も異なる6つの小学校と、3つの中学校がある。

小学校から中学校への円滑な接続、いわゆる「中1ギャップ」への対応、義務教育9年間を見通した教育の質の向上の点から、小中連携の必要性を強く感じている。

芦北町教頭会では、令和元年度に各中学校区で「芦北町小中連携構想図」（以下「小中連携構想図」）を作成した。本小中連携構想図には、「本町の理念」「中学校区小中連携目標」「各学校の育成を目指す資質・能力」「中学校区ごとの取組」等と、その下に六つの連携を記している。

また、芦北町教育委員会と芦北町校長会が連携し「芦北町小中連携における目指す子供像の系統表」（以下「子供像系統表」）も作成した。

令和元年度は小中連携構想図等を作成に着手し、連携の枠づくりを進めた。令和2年度は、連携構想を具現化する年である。各連携の運営の在り方について整理をしたり、小中の滑らかな接続について検証を行ったりすることとし、本主題を設定した。

2 研究のねらい

芦北町小中連携構想図等を活用して、9年間を見通した子供の育ちを保障するための組織的な実践を進める。

3 研究の経過と今後の予定

(1) 1年次（令和元年度）

- ① 研究主題の設定
- ② 芦北町小中連携における目指す子供像の系統表及び小中連携ランドデザイン（後に構想図と名称変更：以下同じ）の検討等
- ③ 中学校区小中連携ランドデザインの策定
- ④ 実践についての中間まとめ

(2) 2年次（令和2年度）

- ① 小中連携構想図等の完成及び周知

- ② 各中学校区・各連携での実践

- ③ 実践についての中間まとめ

(3) 3年次（令和3年度）

- ① 小中連携構想図等の修正及び周知
- ② 各中学校区・各連携での実践
- ③ 研究成果のまとめ

4 研究の概要

(1) 小中連携構想図等の作成及び周知

- ① 各中学校区での「小中連携構想図」及び「子供像系統表」の作成

「小中連携構想図」は、各学校の実態や保護者の願いも反映し、令和元年度に作成した。「子供像の系統表」は、芦北町教育委員会及び芦北町校長会と連携し、令和2年6月に小中連携構想図との整合を図り完成させた。

- ② 「小中連携構想図」及び「子供像の系統表」の周知

教頭として次のような点について留意し、職員会議や連絡会等で周知した。

- ・連携組織を整理することにより部会等の重複がなくなり、また、目指す子供像を描くことにより教員が同じスタンスで児童生徒への指導ができるという点を強調
 - ・小中連携構想図を拡大印刷して職員室に掲示
 - ・職員が各連携に参加するときは、小中連携構想図や目指す子供像の該当部分を指し示し、会議のねらいや方向性を確認
- また、子供像の系統表は、令和2年9月、町の広報誌にも掲載され、学校、保護者、地域、行政が一体となった町内の子供の健全な発達を促す体制づくりをアピールすることができた。

(2) 各連携での取組の実際

- ① 学力の向上を目指した連携
ア 「学力向上部会」研修会（兼教務主任研修会）

本町の大きな課題の一つである「学力



向上」に係る取組である。町内全小中学校の担当者が集まる研修会と3中学校区ごとに連携を深める研修会の両輪で進めている。

全体が集まる研修会では、行政からも参加者があり、各学校の実態からどのような関わりや施策が可能か検討されている。

中学校区ごとの研修会では、芦北町教育委員会の指導主事と開催校の教頭が参加し、課題への対応や地域・保護者への啓発について検討している。

② よりよい生活を目指した連携

ア 児童生徒に係る情報共有

学校には、地域や関係機関から様々な情報が寄せられる。まず校内で情報整理をした後、校区内の関係小中学校へ必ず情報提供をし、解決に向けて同一歩調をとるようにしている。

③ 健康教育推進を目指した連携

ア 合同学校保健委員会

9年間での子供の育ちを見守る観点で、中学校区の小中学校が合同で学校保健委員会を開催している。健康診断の結果から見える子供の育ちの状況や、事前調査をテーマにして会を進めている。

④ 豊かな心の育成を目指した連携

ア 子供たちによるいじめ防止推進事業(田浦中学校区の取組)

本事業は熊本県教育委員会指定の事業で、中学校の生徒会と小学校の児童会が交流を進め、いじめの未然防止やその解消に係る取組を子供主体で推進している。

⑤ 特別支援教育に関する連携

ア 中学校区特別支援教育連携部会

3中学校区では、それぞれの学校の特別支援教育コーディネーターによる会議が行われている。1年に2～3回程度、中学校区ごとに情報交換や進学に伴う引継ぎを行っている。

⑥ 連携カリキュラムの実践

ア くまもと 早ね・早おき いきいきウィーク

これは、本県で進めている取組の一つで、子供の基本的な生活習慣の育成を目指し、9月初めの2週間、早寝「早起

き」「朝ごはん」等の取組を家庭と連携して実施し、その定着状況を確認するものである。中学校区ごとに、各校の担当者が協議して共通テーマを設けるようにしている。令和2年度はチェック表を作成し、重点取組事項を設定して実践を進めた。

⑦ 各連携への教頭の関わり

- ・各連携とも、研修や会議の前には担当者とならについて構想図を基に把握するとともに、学校の現状・課題を確認し、助言をする。
- ・連携の終了後は、報告を受けるとともに、今後の小中連携や本校の課題解決に向けて、対応方法を確認し、手立てについて指示をする。
- ・中学校区ごとの研修や会議に出席するときは、事前に教育委員会担当者と会の趣旨や進行について確認し、研修や会議の方向性を把握したうえで参加し、必要な助言を行う。
- ・各教頭が所属する中学校区ごとの取組については、教頭間で連絡・調整しながら進める。

5 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

- 年度初めに中学校区ごとに「小中連携構想図」を作成することで、各連携での取組事項について見通しをもって臨むことができた。
- 管理職を含む各担当が、自分の校務分掌の役割や連携事項について理解し、効果的に研修会や会議を運営したり参加したりすることができた。
- 他校の取組を知るよい機会となり、教頭としての資質の向上につながる取組となった。

(2) 課題

- 教職員の「9年間を見通した子供の育成」という意識を高め、共通理解と共通実践を進める必要がある。そのために、芦北町教育委員会及び芦北町校長会と連携し、手立てを検討したい。

第1A

第1B

第2

第3

第4

第5A

第5B

第6

特I

特II